

令和6年度 軽井沢町 全国学力・学習状況調査の結果について

【小学校】

国語の平均正答率は、全国・県平均をやや下回りました。学習指導要領の内容別で見ると、知識及び技能では、「情報の扱い方に関する事項」が全国・県平均を上回りました。具体的には、自分で調べた情報と情報を関連付けて、思考をまとめることにおいてよさがみられます。これは、ICT 機器等を用いて自分の考えどのようにアウトプットするか各教科等でも行っている授業の成果であると考えられます。

思考力、判断力、表現力等の「書くこと」は全国・県平均を上回りました。自分が伝えたいことを明確にするために、どのような材料を用いるかを考えることによさがみられます。「話すこと・聞くこと」、「読むこと」では全国・県平均を下回っています。特に「話すこと・聞くこと」において、相手意識をもって、聞き手の求めていることに応じて話す材料を整理することに課題がみられました。相手意識をもった発表場面の設定などの授業改善の必要が考えられます。

算数の平均正答率は、全国・県平均をやや下回りました。学習指導要領の領域別にみると、「図形」は県平均とほぼ同じですが、全国平均に対しては、やや下回りました。

「数と計算」「変化と関係」「データの活用」では全国・県平均よりもやや下回りました。

「数と計算」では、数量の関係を式に表すこと、「データの活用」では、示された情報をもとに、表から必要な数値を読み取って式に表すことに課題がみられました。身近なことから、解決すべき事柄に関して問題を設定できる場面などを授業に取り入れていくことが考えられます。また、「数と計算」の領域については、中学校でも課題とされていることから、小学校での積み残しがないよう定着を図ることに留意する必要があります。

児童質問紙調査の回答結果について、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の質問に対して、肯定的な回答が多いです。規範意識の高い様子がうかがえます。

【中学校】

国語の平均正答率は、全国・県平均をやや上回りました。学習指導要領の内容別に見ると、知識及び技能では、全国・県平均をやや下回りました。漢字や文法など、言葉の使い方にかかわる基礎的知識の定着のために、文脈に即して漢字を読んだり書いたりして、漢字がもつ意味について考える授業を行っていく必要があると考えます。また、小学校と連携して取り組むことも考えられます。

思考力、判断力、表現力等の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、全国・県平均をやや上回った結果となりました。特に「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することによさがみられます。これは、ICT 機器等を用いて自分の考えを積極的にアウトプットすることを各教科等で行っている授業の成果であると考えられます。

数学の平均正答率は、全国・県平均をやや下回りました。学習指導要領の領域別にみると、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の中で、特に「数と計算」では、具体的な事象の中の数量の関係を、文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすることに課題がみられました。数量の関係を考える際に、成り立つ理由について筋道を立てて仲間に説明する場面を設定するなどの授業改善が考えられます。また、単元の導入で小学校の学びを振り返る場面を設定することも考えられます。

生徒質問紙調査の結果からは、「自分にはよいところがある」「人が困っている時に進んで助けている」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」等の質問に対して、肯定的な回答が多いです。自己有用感の高い様子がうかがえます。